

ジョン・バチェラーと平取聖公会

所在地：平取町本町65-1

関連シート：31、70

75

北海道のアイヌ伝道の始まり

平取聖公会^{せいとうかい}の教会堂とバチラー保育園^{せいようえん}*(写真1・2)が所在する平取町本町は、かつてピラウトゥルコタン(崖・の間・の村:平取コタン)と呼ばれ、近代の北海道におけるアイヌの大規模集落地として広く知られていました(バチェラー 1884等)。そうした土地柄の中で明治時代初頭以降、幾人もの宣教師やアイヌ研究者が訪れて貴重な記録が残され、同時にキリスト教布教の拠点としての整備が進められてきました。

日本国内でキリスト教が解禁(資料1)された翌年の明治7(1874)年、英国聖公会宣教師W.デニング司祭(1846-1913)が函館を来訪し、北海道における聖公会の宣教が開始されます。同地を伝道活動の拠点とし、明治9(1876)年に平取を訪問して首長ペンリウク(1833-1903)からアイヌ語を学び、伝道対策の研究をしました。この出来事は北海道におけるアイヌ伝道の始まりとされています(日本聖公会北海道教区歴史編纂委員会編 1966)。

バチェラーの平取来訪

J.バチェラー(1854-1944)は函館在住時の明治12(1879)年に信徒

写真1

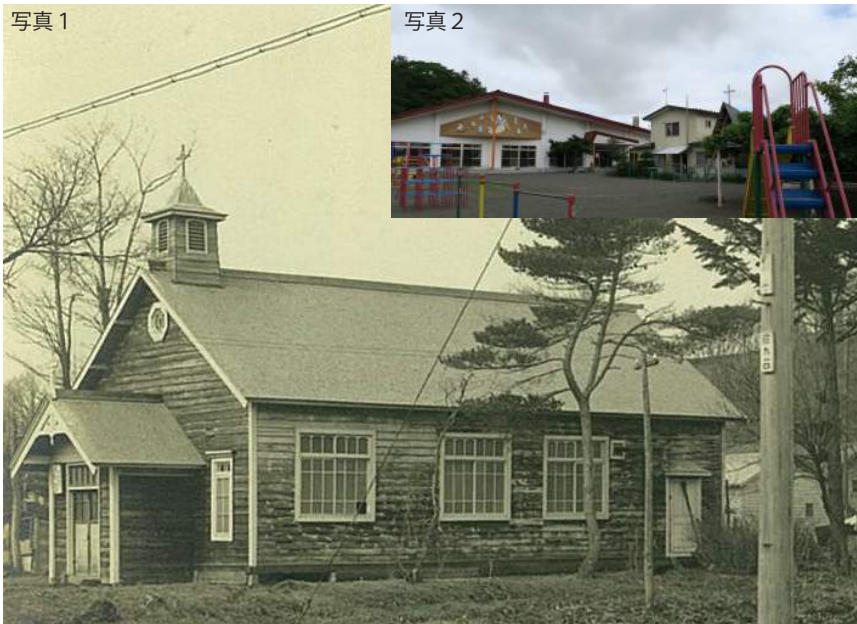


写真2



写真1・2 明治28(1895)年に竣工された平取聖公会(写真1は昭和8[1933]に改築された後の教会、遠藤裕昭氏提供)。昭和41(1966)年には現在の教会堂が新築され、バチラー保育園(昭和24年開設・同47年現施設へ改築:写真2)とともにキリスト教伝道の拠点的施設として地域に受け継がれている

伝道者^{でんどうしゃ}に任命され、同地を拠点にアイヌへの伝道活動を始めます。同年9月には初めて平取コタンを訪れ、その後幾度にもわたってペンリウク宅でアイヌ語やアイヌ文化を学びます(写真3・4)。

また、たびたび函館までペンリウク^{しやうへい}を招聘して集中的にアイヌ語研究に打ちこみ、明治22(1889)年に出版される『蝦和英三対辞書』^{か わ え い さん たい じ しょ}という大きな成果へと結びついていきます。この初版本は「ほとんど日高の平取のアイヌ語だけが納められている」(田村 1981)もので、明治前半代の平取コタンの暮らしを知る上でも貴重な記録とい

えます。

バチェラーは明治24(1891)年に函館から札幌に拠点を移し、後の明治28(1895)年に建てられる平取初の教会堂建設に尽力します。明治39(1906)年には有珠出身のアイヌの向井八重子(1884-1962:後のバチェラー八重子)を養女として迎えます。八重子はその後札幌のアイヌ保護学園や幌別教会(幌別:現登別市)での勤務を経て、昭和2(1927)



写真3 J.バチェラー(右)とペンリウク(バチェラー 1928)。バチェラーによるアイヌ研究の知識は、その多くがペンリウクとの交流の中で培われた

資料1 明治時代初頭におけるキリスト教の解禁

維新直後に公布された「五榜の掲示(高札)」(慶応4[1868]年)によって、明治政府は徳川幕府に引き続きキリスト教を禁教することを明示した。江戸時代以上に苛酷なキリシタン弾圧も行なわれ、キリスト教解禁を迫る外国公使団はこれに対して強い抗議を繰り返した。一方、明治初年以來、不平等条約(日本が欧米列強と結んだ条約)の改正は政府の最重要課題であった。条約改正せずに信教の自由を認めさせたい諸外国と、条約改正はしたいがキリスト教を解禁したくない日本政府との間で、キリスト教問題は取り引きの材料になる。このせめぎあいを経て諸外国からの圧力が高まり、岩倉使節団(訪欧中の明治6(1873)年2月24日、政府はキリシタン禁令を含む高札を撤去した。(参考:ビジュアル・ワイド明治時代館 2005)

年から昭和6(1931)年まで平取教会で働き、地域住民への布教活動を行いました(掛川 1988)。

バチラー保育園の開設

大正12(1923)年に、当時の北海道ではまだ珍しい幼児施設である平取幼稚園(バチラー保育園の前身)が設けられました。後の昭和3(1928)年に財政難で廃園になりましたが、昭和22(1947)年にはバチラーらによるアイヌ伝道の重要性を受け継ぐための記念事業が計画され、その一環として昭和24(1949)年に教会前の消防会館を買い取ってバチラー保育園が開設されました(日本聖公会北海道教区平取聖公会 2009)。

その後、現在に至るまで園ではキリスト教精神に基づいた幼児保育が行われています。また園内に掲げられている肖像写真によって、園児は幼少期からバチラーの存在を知る環境にあります。

バチラーの功績と平取本町の今

バチラーは明治・大正・昭和期の北海道に生き、地域住民へキリスト教を伝道する一方で、アイヌ語の保存、慈善活動など多彩な功績を遺してきました。北海道で大水害があった明治31(1898)年には平取地方に米を配給し、大正2(1913)年の水害時にも北海道各地のアイヌの救済にあたるなど、幾度にもわたる災害支援を行いました(横田編 1954)。また、明治



写真4 ペンリウクの家。バチラーが平取コタンでアイヌ語研究を進める拠点となった家。現義経神社の鳥居前辺りに所在した。明治14(1881)年には、バチラーが下宿するための新室(2.7×1.8m)を建てて滞在の便宜を図った(この年は4月～秋まで逗留)。(スター 1904)

資料2 聖公会について

カンタベリー^{だいしゅきょう}大主教を精神的指導者とするイングランド教会を母体に、世界160カ国に広がる教会(信徒6500万人)。ローマ・カトリックとプロテスタントに大別される西方キリスト教会の中で、聖公会は両者の要素を兼ね備え、その中間に位置しているといわれています。聖公会の信仰は、東アジアには18世紀から19世紀にかけて、英国と米国の両聖公会から伝えられました。日本には安政6(1859)年、米国聖公会から二人の宣教師が渡来、今日の礎^{いしず}を築きます。キリスト教禁令が廃止された後は英国、カナダ聖公会の宣教師団も伝道に加わり、明治20(1887)年に「日本聖公会」が創設されました。(参考:リーフレット「聖公会」[北海道教区])

資料3 J. バチラーの略歴

安政元(1854)年 英国サセックス郡アクフィールド村に生まれる
 明治9(1876)年 ロンドンにある神学校を卒業、勉学のために香港に渡るが、マリアリアにかかる
 明治10(1877)年 転地療養のため香港出港、函館渡来。以後、函館を活動拠点とする
 明治12(1879)年 デニング同伴で平取コタン初訪問
 明治17(1884)年 初の著書『蝦夷今昔物語』^{えぞこんじやくものがたり}を出版。その後、数々のアイヌ関連著書^{えぞこんじやくものがたり}を世に出す
 明治24(1891)年 函館から札幌に移転、出国するまでの活動拠点とする
 明治28(1895)年 平取聖公会竣工、開堂
 大正11(1922)年 平取幼稚園開設(後のバチラー保育園)
 昭和15(1940)年 最後の平取訪問、その後日本を出国し、カナダへ向かう
 昭和19(1944)年 満90歳、故郷アクフィールド村の生家にて逝去

(バチラー 1954・1993)

23(1890)年には幌別^{あいらん}に「愛隣学校」を設立したのはじめ、札幌に「アイヌ保護学園」(明治23[1890]年)、「アイヌ・ガールズ・ホーム」(明治31[1898]年)を設立するなど、北海道内の各地でアイヌ子弟の教育活動にも力を注いでいます(仁多見・飯田訳編 1993)。バチラー

がキリスト教の教えを説き実践した平取本町では、現在も変わることなく平取聖公会とバチラー保育園に老若男女が集っています。現在営まれるこうした施設群は、バチラーの博愛精神と住民の信頼関係の証といえます。

*固有名称であるバチラー保育園以外の表記は、英語の「Batchelor」の発音により近い「バチラー」の表記とさせていただきます。

「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」2007(平成19)年7月26日、重要文化的景観(国文化財)に選定



文化的景観についてのお問い合わせ
 平取町立二風谷アイヌ文化博物館
 Nibutani Ainu Culture Museum
 〒055-0101
 北海道沙流郡平取町字二風谷55番地
 電話:01457-2-2892
 FAX:01457-2-2828
 発行:2016年7月